エッセイ

オリンピックの品格

SCE・Net　弓削　耕

E-14

発行日

2008.9.24

最後のボールがファーストミットに納まり、日本の 2008 年オリンピックは終わりました。２日間 3 試合で 413 球も投げた上野投手のスタミナ、豪腕には恐れ入りました。100 球限度でしか投げないプロ野球の投手などは大いに見習って欲しいと思います。昔は稲尾投手のように投げても投げても勝利を重ねていたピッチャーもいましたが、最近では連投でもしようなら、メタメタに打たれてしまい、腰痛になり肩を壊します。

4 年に 1 回、世界中の超一流選手が集まっての大会、時差が少ないので、あまり寝不足にならず、テレビで十分に楽しめました。テレビの放送ではどうしても日本選手の活躍が中心となりますが、オリンピックの原点である陸上、水泳では、スーパースターの競技は楽しめました。2 週間、大過なく無事終わったのは、ボランティアや美人コンパニオンを始め、多くの当局の人々の目に見えない努力、苦労があったからでしょう。聖火リレーを含め、場外では多少のトラブルがあったような報道もされましたが、会場内では円滑に行事が進んだようで、終わってほっとしました。

オリンピックの精神は「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく、参加することである。人生で大切なことは、成功することではなく、努力することである」（クーベルタン男爵）と言われています。各地域の優れた選手が参加し、力と技を競い合い、結果を出した選手が皆から祝福されるというのがオリンピックの精神で、これがオリンピックの品格を示すものと思います。されど、ある程度のレベルの選手でなければ、参加しても費用と時間の無駄でしょう。男子マラソンとか新聞記事の隅でやっと取上げられる競技などに参加した、後ろから数えればメダル獲得という日本選手がこの例でしょう。

されど、世界一になるのは、金メダルを取るのは、決して簡単なものではない、甘いものではないことが分かります。才能に恵まれ、幼時から親しみ、修練を積み、体の限界まで自分を痛め、4 年目に、試合の当日にベストコンディションに持っていかねばならないというのは、並々ならぬ努力が必要ですし、また天運もあるでしょう。一発勝負の怖さを感じますし、メダルを取るか取らないかでは天と地の差があるようです。

金メダルは国家の威信をかけている国と、商業主義を崇拝する国が多く取れるようです。日本はその中間でしょうか、国の支援もあまり多くはないようで、むしろ商業主義、マスコミの騒動に動かされているようです。

オリンピックに出る選手を育てるには、かなりの費用がかかるので、それをどのように誰が負担するかが問題です。国の威信をかけてというのは、かっての東欧諸国などがこの例でしょう。支援があると逆に成果を出せないときは悲劇が待っているのではないかと心配されます。さもなくば、商業主義にのり、企業の宣伝や広告塔となるようにして資金を

集めることでしょう。資本主義国がこの例で、日本も強力なスポンサーを持つことで練習や海外遠征などが有利に進められるようです。国からの資金が多いと金メダルが多くなるデータもあり、メダルを金で買う風潮が進めば品格以前の問題となります。

今回の日本は、9 個の金メダル、銀、銅を合わせて 25 個はまずまずでしょう。欲を言えば、もう少し柔道、マラソン、野球などで取れれば良かったのですが、前回のアテネ大会の 16 個は少し出来すぎでした。金メダル大国、必ずしもスポーツ大国ではありません。勝負をするからには勝つことが本望ですが、負けても清々しく、スポーツ精神が発揮されれば品格が保てます。あまりに勝負に拘りすぎると、勝てなかったときに惨めです。金しかいらないと豪語し、銅も取れないのでは、面子丸つぶれで、品格を落とします。

国の代表となると、応援団にも力が入ります。全く応援がないと選手も張り合いがないでしょうが、やりすぎると贔屓（ひいき）の引き倒しになります。応援もフェアな心で、良いプレー、元気なプレーには敵味方なく賞賛して欲しいものです。相手のプレーを阻害したり、調子を外させたりするのは避けるべきでしょう。応援にも品格が必要です。

メダルに拘ると、参加することに意義があるとか、アマチュア精神を発揮してということは薄くなってきます。日本を例に考えれば、プロ選手を集めた野球とサッカーがこの例で、競技を詰まらなくしています。シーズン中の選手を無理やり集めて、チームワークもなく、勝つぞ勝つぞとマスコミに煽られ、結果が出ずに、哀れマスコミに袋叩きではいつものパターンで進歩がありません。かってのようにアマチュア野球やサッカーの選手でチームワークも十分に取れる編成にする方が良いと思います。この点、女子ソフトボールは長年の執念、努力が実を結んだようで見事でした。勝てば官軍です。

オリンピックもアメリカのロス大会の頃からか、商業主義の色調が濃くなり、派手さが目立ち、競技に関係ない催しが多くなりすぎています。開会式などは、もっと簡素に行うべきです。選手数が多いので入場行進だけで 2 時間も 3 時間もかかる上に、豪華なセレモニーは不必要です。簡単なマスゲームと点火式に開会宣言と簡素化すべきでしょう。TV で見るだけでも疲れるので、何時間も拘束される選手は気の毒です。コンディションも狂ってしまうでしょう。閉会式も聖火が消えてから長々と歌を歌う音楽会は別の機会にお願いしたいと思います。もう少しお金の使い道を考えれば、品格の高い儀式になるでしょう。

また、競技数が多すぎますし、種目もこれでもか、これでもかと続きます。第 1 回アテネ大会では 8 競技（陸上、水泳、体操、レスリング、フェンシング、射撃、自転車、テニス）42 種目でした。今は 35 競技 300 種目を超えています。初回は欧米中心でしたから、アジア・アフリカの種目を加え、今回の半分か 1 ／ 3 位には減らしでよいのではないでしょうか。出来るだけ多くの人に参加してもらう趣旨でしょうが、一工夫が必要です。多くの人を参加させるには、水泳の 50m 自由形が良い例です、記録も悪い多くの人が参加しましたが、競技は短時間に終わる良い試みと思いました。

オリンピックは基本的には早さ、強さ、力を競うものですから、それに絞ってはどうでしょうか。シンクロ、新体操、飛び込みなどは芸術的な美しさを見るものですから、別に

スポーツ芸術大会などとしてはどうでしょうか。判定も審判の主観に左右されるので、あまりすっきりしません。金銀に拘らず、良かった悪かったともっと楽しめるものでよいと思います。審判の好不調に左右されずに芸術を観賞したらよいでしょう。野球、サッカー、バレー、バスケット、ホッケーなどのチーム競技は、各種のワールドカップに任せたほうがすっきりします。

日本の柔道も冴えませんでした。柔道が JUDO になっているからで、国際化をすると日本の主張はなかなか通せません。柔道をオリンピック種目にしたときから今日の姿は予想されていたでしょう。日本の考え、伝統を理解してもらえないのは、日本に、それほど力がないことを示しています。自分の手元から離し、ルールを相手任せにして、それに合わせていないから、そこで勝ち抜くのは難しくなります。鈴木選手と石井選手の結果を見れば明らかです。しかし JUDO は JUDO として一本勝ちですっきり決める柔道もしっかり守って欲しいと思います。女子柔道の谷本選手の金メダルにはすっきりしました。日本発の競技も国際的にするには外国人の考えに合わせないといけないのでしょうか。西洋発の競技もそうなのでしょうか。日本が強くなると、バレーにしろ、平泳ぎにしろ、スキーのジャンプにしろ、日本の意見を聞かずに、聞いても少数意見で押し切られて日本にとって不利なルールになるよう気がします。同じようなことがビジネスの国際化でもいえるのではないでしょうか。この世界で日本が生きていくのは並大抵ではないと思っています。

今回の日本選手では、女子の活躍が目立ちました。ソフトボール、レスリング、柔道、サッカー、水泳など、男子が霞むなかで、撫子たちが強くなりました。これにマラソンが加わればいうことはありませんでした。日本の社会では、まだ女性の地位は低いと思いますが、スポーツの世界での女性の地位は高くなっているようです。日本男子がだらしないし、女子の方が何をするにも真面目で真剣に努力するように思います。日本社会全体を見てもその傾向があるのではないでしょうか、女性上位の世界が必ずしも良いとは言えませんが、男女同権ですから、男性ももっと頑張って下さい。筋の通った、気骨のある男性が減ってきているようです。男子の柔道、マラソンの再起を期待します。

毎回マスコミにあまり取上げられないで活躍する選手がいますが、今回はフェンシングの太田選手と陸上男子 400m リレーでしょう。マスコミに過度に取上げられないとプレッシャがかからずに実力が発揮できるようです。永年の人知れずの努力が報われて良かったと思います。しかし、メダルなどを取ると、暫くは普通の生活ができずに大変だと思います。マスコミ攻勢は日本とか、発展途上国特有のようで、欧米では日本ほどの騒ぎはないように聞いています。マスコミに取上げられると、追っかけが多くなり、それに耐えて勝ち抜くのは相当な精神力が必要でしょう。

日本のヒーロー、ヒロインを北島選手、上野選手とすれば、全体でのヒーローは水泳のフェルブス選手と陸上のボルト選手でしょう。1 人で幾つもの種目に優勝するのは素晴らしい上に、世界新記録で達成するのですから驚くほかありません。それも余裕を持っての勝利です。人類は何処まで早く走れるか、泳げるか、0.01 秒の世界に入りましたが、何処

まで行くのか恐ろしい気がします。それに反して、銅メダルを投げ捨てたり、ドーピングで失格したり、判定に不服で審判を蹴飛ばしたりするのは品格を失わせるものです。審判も人の子ですから、ミスもありましょうが、選手が一流であるように、審判もさらに技術を磨き、一流であって欲しいと思います。フェアプレーの精神を尊重する、毅然たる態度をとる、品格ある審判が望まれます。

勝敗を決する競技に臨んで、選手は勝つことに全力を尽くすのは当然ですが、スポーツですからルールを守り、フェアプレーの精神を忘れず、勝って驕らず、あまりにはしゃぎすぎず、敗者も思いやる勝者の品格を保って欲しいものです。負けたからといって卑下することなく、自己を静かに見直し、爽やかに選ばれた競技者の品格を保つことが必要です。勝つと言って勝つのはよほど実力が図抜けている場合です。紙一重の実力では勝つのは並大抵ではなく、多少の力の差では常に勝てるものではありません。運もありますが、勝てないのはそれなりの理由があります。

また 4 年後にさらに品格のある大会を楽しみにしています。

（おわり）